

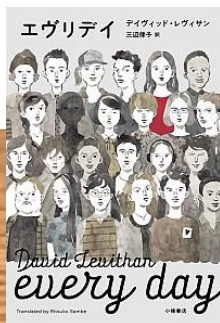
みどりの翼

特集

NEW

何かと新しいことが始まる季節
あなたにとってのNEWはなに？

2021年4月 Vol. 74



なのビィ



発行：田原市中央図書館

(TEL：0531-23-4946)

ヨシタケシンスケさんによる哲学者の似顔絵がかわいい

「はじめての哲学」

石井郁男／著 あすなろ書房 2016年 130.2/円 171ページ



哲学と聞くと「なんだか難しそう」と尻込みしてしまうけど、すごくカンタンに言うと、「いろいろ考えるのが好きだった人たちの歴史」です。この本では古代ギリシャから現代まで、考えるのが大好きな14人の哲学者を紹介しています。哲学者たちがどんなことについていろいろ考えたのかがわかり、面白いエピソードも楽しめる1冊です。

落ち着かない新学期、哲学に浸ってみてもいいかも。

自分ではどうしようもないことに どう向き合えばいいのだろうか

「^{さく}朔と^{あき}新」

いとうみく／著 講談社 2020年 913/円 171ページ



高速バスの事故で失明してしまった朔は、ブラインドマラソンをしてみたいから弟の新に伴走者になって欲しいと告げる。しかし、かつて陸上をやっていた新は、朔が失明してから走ることをやめてしまった。新は、自分のせいで朔が失明してしまったと思っていたのだ。

運動が得意でない朔と、ブラインドマラソンの伴走者をするようになった新。二人の新たな挑戦の行方は？

朝目覚めたら、いつも新しい毎日

「エヴリデイ」

デイヴィッド・レヴィサン／作 小峰書店 2018年 933/円 171ページ



「A」は毎日違う身体で目覚める。性別も、住んでいるところも毎日違う、共通点はみんな16歳ってことだけ。もちろん親しい友だちなんて作れずにただ過ぎていく日々の中、5994日目のリアノンとのデートをきっかけに「A」の生活が変わり始める。新しく生まれ変わって違う人間になってみたい、一度は思ったことはあるけれど、友達や親しい人も作れないそんな毎日はきっとキツイだろうな…。

おいしく、楽しく、健康に。

「朝10分！中高生のラクチン弁当320」

食のスタジオ／著 学研プラス 2019年 596.4/31 ライオン



新生活が始まり、自分でお弁当を作る人もいるかもしれませんが。私も時々作っていますが、朝の限られた時間で効率よく作るのは大変です。献立を考えるのも、毎日だとネタが尽きてきます。そんな時はレシピ本を参考にします。勉強や部活動などで忙しいと思いますが、おいしいものを食べて楽しく健康に過ごしたいですね。季節の変わり目、一緒に頑張りましょう。

ムシが苦手なひととは、そーっとめくって。

「新種の冒険」

サラ・パナクほか／著 朝日新聞出版 2015年 462/ウ 一般



新しく発見された生きものは、新しい知恵の塊。将来地球や私たちに異変が起きて、生きるのに困ったときのために、今からたくさん探しておくのが大事なんですって。ただ面白いからじゃないんだね。

成熟しても2cmに満たない竹。私にはそのサイズより竹が木じゃなくて草だったことの方が驚きだけど、この発見もいつか人類存続の切り札となるのかしら。

職人さんの心のこもった仕事です

「古くて新しい椅子」

中嶋浩郎／文 パオラ・ボルドリーニ／絵 福音館書店 2014年 583/1 児童



イタリアにすんでいる小学4年生のマルコは、家のおきにしまわれていた100年ほど前のオンボロのつくえと椅子を修理に出すことにします。

修理する過程で、さまざまな職人さんたちの手作業によって、新しいものに生まれ変わっていきます。使い捨てにしない、痛んだものは修繕して使っていく大切さが伝わります。そんなふつに物を大事にしたいですね。

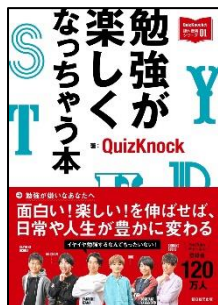
中央図書館では、その他のオススメ本も展示しているので見に来てね☆

☆新着図書・この本読んで！☆

「好き！」「楽しい！」からつながる学び

「勉強が楽しくなっちゃう本」

QuizKnock／著 朝日新聞出版 2020年 002.7/7 1100円



勉強は強制されると苦しくなってしまうよね。この本で「自分は何のために勉強するのか」を考えてみるとよいかもしれません。薄いノートを使うことで自分の達成感を「見える化」しやすい、というのは納得でした。途中で出てくる漫画やコラムも読んでいて楽しいです。学生の時にQuizKnockみたいな方々と出会いたかった！私も参考にします。学びは永遠ですからね。

居場所があるって、心の安らぎにつながります

「教室に並んだ背表紙」

相沢沙呼／著 集英社 2020年 913.6/71 1100円



友達とうまく関われない、ほんの少しのことがきっかけで仲間外れにされる。居場所がなく生きづらさを感じる女子中学生が、図書室の学校司書しおり先生と出会い、少しずつだけ自分に正直に、そして一歩踏み出そうと決意する…。自分の心の痛みをわかってくれる人がいることで救われることは大人の世界でもあります。学校図書室を舞台に、さまざまな悩みをかかえた彼女たちの短編集です。

近代文学×現代イラスト「乙女の本棚」シリーズ新刊！！

「魔術師」

谷崎潤一郎／著 立東舎 2020年 913.6/72 1100円



彼女に「公園に魔術師見に行こうよ！」と言われて行ってみるお話。舞台の町はアジアのような西洋のような、件の魔術師は男にも女にも見え…と全体的に実体が掴めない煙のような雰囲気なのですが、そこに美しいイラストが添えられて摩訶不思議な世界が目に見えるようになっています。同シリーズのほかの本もオススメです。

予告：次号の特集は「夏を感じる」です。お楽しみに♪